

第11期報告書

2007年4月1日 ▶ 2008年3月31日

株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎年6月
基準日	3月31日 そのほか必要がある場合には、あらかじめ 公告いたします。
期末配当基準日	3月31日 なお中間配当を実施するときの 株主確定日は9月30日
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	みずほ信託銀行株式会社 本店証券代行部
同事務取扱所 (お問合せ先) (郵便物送付先)	〒135-8722 東京都江東区佐賀一丁目17番7号 みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 0120-288-324(フリーダイヤル)
同取次所	みずほ信託銀行株式会社 全国各支店 みずほインベスターズ証券株式会社 本店および全国各支店
公告掲載新聞	日本経済新聞



I'ROM
HOLDINGS

healthcare / concierge / company

株式会社アイロムホールディングス

〒141-0032 東京都品川区大崎1-2-2

<http://www.irom-hd.co.jp>



株式会社アイロムホールディングス

証券コード：2372

「ビアンネートル」の精神と「オーガニック オーガニゼーション」というカタチで、これからの統合医療サポート企業を目指します。

アイロムグループは考えます。
「医療とは、誰のために・何のためにあるものなのか。」
もちろん、医療には病気を治すという大きな使命があります。
しかし、医療というものを突きつめて考えると、病気になるない健康な身体を維持するために、情報の発信地として存在したり、予防医学に対して適切な回答が出せる…つまり優れたアドバイザーとしての役割もあります。
アイロムグループは、医療全般を横のつながりで考え、幅広い視野で事業を展開。
皆さんが自己による健康管理（セルフメディケーション）のできる環境づくりや啓蒙活動を進めてまいります。

統合医療サポート企業のリーディングカンパニーとしてトップを目指す。
それがアイロムグループです。

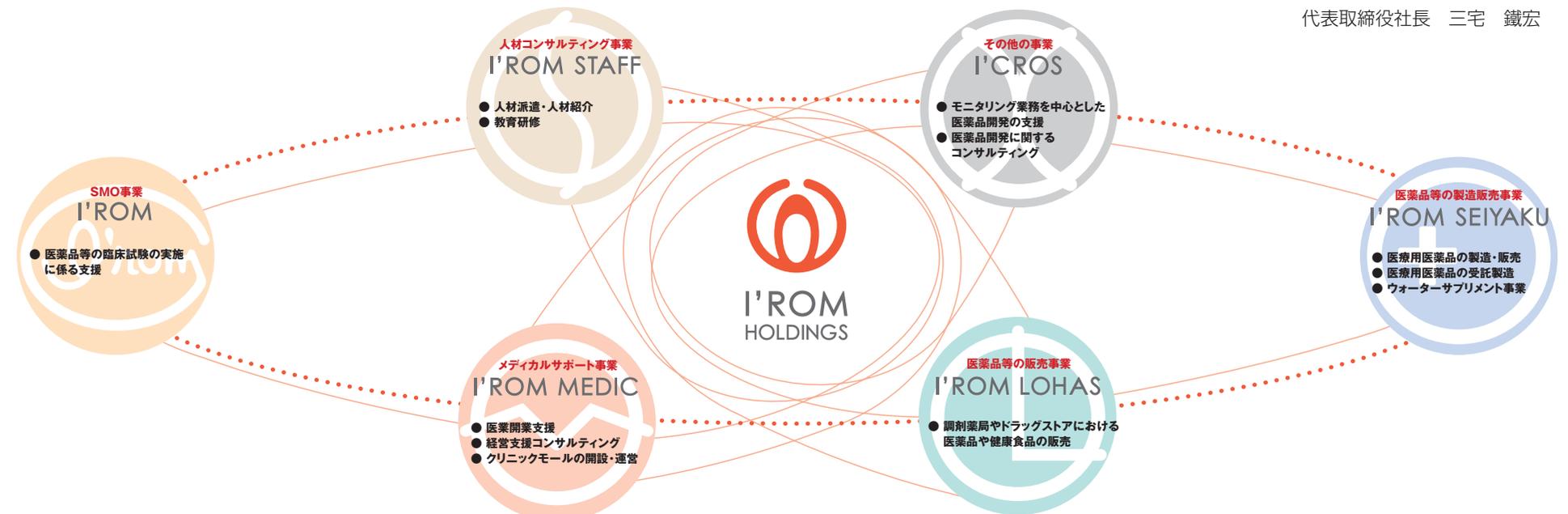
株主の皆様におかれましては、ますますご清栄のこととお慶び申し上げます。

当社グループは、1997年の創業以来、新薬の治験支援事業を主力とし、よりよい医療環境の実現に向けた取り組みに注力してまいりました。

年々、医療を取り巻く環境が変化を遂げると同時に人々の健康志向が急速に高まり、食事や健康食品、サプリメント等への注目が集まっております。このような背景を受け、当社グループは、生活者のニーズを捉えた医療に関する情報・サービスを提供することで、引き続き生活者自身が健康管理(セルフメディケーション)のできる環境作りを推進してまいります。

今後も、持続的成長が可能な経営体質の確立に努め、企業価値の向上を目指してまいりますので、皆様からの更なるご支援、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

代表取締役社長 三宅 鐵宏



Top Interview

Q 当期の業績について

A 当期(2008年3月期)のSMO事業は、第Ⅰ相分野における治験の受注が順調に増加した結果、増収増益を達成することができました。加えて、人材コンサルティング事業は、ドラッグストアや調剤薬局への薬剤師の派遣に対する需要が高まるなか、首都圏及び関西地域を中心に事業が拡大した結果、増収増益を達成することができました。また、医薬品等の販売事業は、不採算店舗の統廃合、仕入れコストの見直し等により、当期は、営業黒字へと転じました。一方、メディカルサポート事業では、介護用品の製品改良の影響による販売計画未達により減収・営業赤字となり、医薬品等の製造販売事業では、医薬品の製造受託の堅調な推移に加え、オリジナルブランドのウォーターサプリメントの積極的な営業活動により売上は増加したものの、設備投資等による費用の増加により営業赤字となりました。その他の事業では、特にCRO業務の拡大に努めた結果、増収となりましたが、事業基盤拡充に関する費用の増加により減益となりました。

以上の結果、当期の売上高は13,726百万円(前期比

7.5%減)、営業損失は430百万円(前期は営業損失1,406百万円)、経常損失は275百万円(前期は経常損失1,377百万円)、当期純損失は1,090百万円(前期は当期純損失673百万円)となりました。

Q 次期の見通しについて

A 次期(2009年3月期)につきましては、世界的に主力の医薬品が特許切れを迎える「2010年問題」や国内外の製薬企業における新薬及びジェネリック医薬品の研究開発費の増加などによるSMO市場の拡大の兆しを好機と捉え、SMO事業における治験の受託数を拡大し、収益基盤の強化に努めると共に、海外の企業との提携によるジェネリック医薬品の販売及び医と食を融合させたオリジナルブランドのウォーターサプリメントについて臨床試験の実施並びにエビデンスの構築など、引き続き国民の健康管理や生活の質の向上に貢献してまいります。

具体的には、次期の連結売上高は15,300百万円(前期比11.5%増)、営業利益は400百万円(前期は営業損失430

百万円)、経常利益は340百万円(前期は経常損失275百万円)、当期純利益は200百万円(前期は当期純損失1,090百万円)を見込んでおります。

Q 中期経営計画について

A 拡大基調にあるSMO市場において、引き続きSMO事業を当社グループの収益基盤に据え、全国規模で第Ⅰ相から第Ⅳ相までの臨床試験を受託することで安定した事業の拡大を図ってまいります。また、医薬品等の製造販売事業におきましては、注射剤の部分受託製造から全面受託製造への移行に伴い収益を拡大してまいります。一方、当社グループの更なる発展のためには、事業間のシナジーが不可欠となります。今後は、主軸であるSMO事業において培ったノウハウを活用したオリジナルブランドのウォーターサプリメント「水の元素」に関する積極的な臨床試験の実施による新たな地位の確立に加え、医薬品等の販売事業で構築した販路を活用した海外のジェネリック医薬品の積極的な販売への着手など、ヘルスケアの分

野において、各事業の新たな芽となる種を蒔き、当社グループ全体の業績という収穫に結び付けてまいります。

Q 株主の皆さまへのメッセージをお願いします

A 当期は、売上につきましては前期を若干下回ったものの、年間を通じて費用の圧縮、経営の効率化に努めた結果、営業損失を縮小することができました。また、当期の剰余金の配当は、1株当たり年間100円とさせていただきます。尚、次期の年間配当金額につきましても1株当たり100円を予定しております。引き続き、企業価値の向上を念頭に事業の拡大と収益力の更なる向上を目指して、各事業の収益基盤及びグループ全体の連携を強化すると共に今後も統合ヘルスケア事業ネットワークの構築を企業目的として、生活者により良い環境を提供してまいります。

株主の皆さまにおかれましては、引き続き変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。





SMO事業 ・医薬品等の臨床試験の実施に係る支援

当事業におきましては、第Ⅰ相から第Ⅳ相までの総合的な臨床試験支援体制により、全国規模での事業基盤の拡充に努めた結果、提携医療機関数は995（前年同期比161増）となりました。また、医薬品開発の期間短縮が求められている中で、臨床試験の効率化及び質の向上に努め、受注案件が着実に進捗したことに加え、特に第Ⅰ相分野における受注が順調に増加した結果、売上高は3,092百万円（前年同期比17.1%増）、営業利益は775百万円（前年同期比19.7%増）となりました。



メディカルサポート事業 ・医療開業支援 ・経営支援コンサルティング ・クリニックモールの開設・運営

当事業におきましては、地域性に応じた診療科目を備えるクリニックモールの新規開設を推進し、上期におきましては横浜市都筑区に、下期におきましては港区海岸にそれぞれ1箇所開設するとともに既存のクリニックモールの稼働に注力してまいりました。しかしながら、介護用品の製品改良の影響による販売計画未達により売上が予想を下回った結果、売上高は954百万円（前年同期比36.1%減）、営業損失は17百万円（前年同期は営業利益122百万円）となりました。



人材コンサルティング事業 ・人材派遣・人材紹介 ・教育研修

当事業におきましては、薬事法の改正に伴い医療分野における専門的知識・経験を持った人材の需要増が継続する中、首都圏及び関西地域へのドラッグストア・調剤薬局に対する薬剤師の派遣に継続的に注力し、大手調剤薬局チェーンへの薬剤師派遣の拡大に加え、下期におきましては、特に関西地区における新規クライアントへの営業強化に努めてまいりました。

この結果、売上高は380百万円（前年同期比40.8%増）、営業利益は17百万円（前年同期比170.3%増）となりました。



医薬品等の販売事業 ・調剤薬局やドラッグストアにおける医薬品や健康食品の販売

当事業におきましては、地域に密着した健康情報の発信をテーマとし生活者と医療機関との結びつきをコンセプトとした薬局「ファルマルシェ薬局」の既存店舗を活性化させ安定した収益体質への改善に努めてまいりました。この結果、店舗数の減少により売上高は4,202百万円（前年同期比28.7%減）となりましたが、不採算店舗の統廃合、仕入コストの低減及び販売費及び一般管理費の見直し等への取り組みを継続した効果により、営業利益は30百万円（前年同期は営業損失618百万円）となりました。



医薬品等の製造販売事業 ・医療用医薬品の製造・販売 ・医療用医薬品の受託製造 ・ウォーターサプリメント事業

当事業におきましては、医療用医薬品の製造・販売及び他の医薬品メーカーからの製造受託等の事業が堅調に推移し、特にDPC（急性期入院の包括払い制）実施病院が拡大するなかで、DPC 導入病院及び調剤薬局への営業強化に努めました。また、オリジナルブランドのウォーターサプリメント「水の元素－みずのげん－（水素水）」及び下期に発売を開始した新製品「水の元素－モバイルH2チャージャー」の市場への浸透を目指し、積極的な営業活動に注力した結果、売上高は4,595百万円（前年同期比7.7%増）となりましたが、設備投資による減価償却費及び外注加工費の増加により、営業損失は547百万円（前年同期は営業損失519百万円）となりました。



その他の事業 ・モニタリング業務を中心とした医薬品開発の支援 ・医薬品開発に関するコンサルティング

当事業におきましては、上期に（株）アツクコーポレーションを子会社化し、CRO業務の拡大に努めた結果、売上高は502百万円（前年同期比82.3%増）となりましたが、事業基盤の拡充のための販売費及び一般管理費の増加により、営業利益は24百万円（前年同期比27.0%減）となりました。



連結財務諸表（要約）

連結貸借対照表

科 目	第10期	第11期
	2007年3月31日現在	2008年3月31日現在
資産の部		
流動資産	18,220,757	17,710,759
現金及び預金	5,431,859	2,736,344
受取手形及び売掛金	3,262,896	2,947,943
営業貸付金	6,097,052	5,533,742
短期貸付金	—	1,682,836
たな卸資産	1,673,028	4,244,113
繰延税金資産	323,818	128,116
その他	1,705,134	947,880
貸倒引当金	△ 273,031	△ 510,216
固定資産	10,521,717	9,052,977
有形固定資産	4,896,993	4,388,660
建物及び構築物	2,173,586	2,129,247
機械装置及び運搬具	440,905	700,127
土地	1,795,576	1,428,820
建設仮勘定	375,994	10,634
その他	110,930	119,831
無形固定資産	1,264,783	902,246
のれん	1,007,292	704,407
その他	257,490	197,839
投資その他の資産	4,359,941	3,762,070
投資有価証券	2,317,550	1,517,879
長期貸付金	111,199	176,684
関係会社長期貸付金	138,750	—
繰延税金資産	123,960	257,852
その他	1,668,573	2,059,239
貸倒引当金	△ 92	△ 249,585
資産合計	28,742,475	26,763,737

（注）記載金額は、千円未満を切り捨てて表示しております。

（単位：千円）

科 目	第10期	第11期
	2007年3月31日現在	2008年3月31日現在
負債の部		
流動負債	11,515,764	11,179,647
支払手形及び買掛金	1,528,660	1,256,566
短期借入金	8,052,140	7,449,172
一年内返済予定長期借入金	16,880	665,204
未払法人税等	131,564	81,810
繰延税金負債	2,121	833
賞与引当金	73,962	33,780
その他	1,710,435	1,692,281
固定負債	1,185,025	1,147,686
長期借入金	—	58,559
繰延税金負債	189,768	171,611
退職給付引当金	471,407	401,295
役員退職慰労引当金	8,490	—
その他	515,359	516,220
負債合計	12,700,789	12,327,334
純資産の部		
株主資本	15,596,090	14,412,948
資本金	6,286,440	6,286,440
資本剰余金	7,577,440	7,577,440
利益剰余金	1,732,210	549,068
評価・換算差額等	7,136	△ 57,036
少数株主持分	438,458	80,490
純資産合計	16,041,685	14,436,402
負債純資産合計	28,742,475	26,763,737

連結損益計算書

科 目	第10期	第11期
	2006年4月1日から 2007年3月31日まで	2007年4月1日から 2008年3月31日まで
売上高	14,838,473	13,726,917
売上原価	11,105,739	9,739,318
売上総利益	3,732,733	3,987,598
販売費及び一般管理費	5,139,347	4,418,228
営業損失	1,406,613	430,629
営業外収益	103,840	321,842
営業外費用	75,087	166,219
経常損失	1,377,860	275,006
特別利益	1,200,569	111,468
特別損失	496,921	861,162
税金等調整前当期純損失	674,213	1,024,700
法人税、住民税及び事業税	226,610	75,130
過年度法人税等	△97,621	—
法人税等調整額	△30,781	89,111
少数株主損失	98,805	98,304
当期純損失	673,614	1,090,638

連結株主資本等変動計算書（2007年4月1日から2008年3月31日まで）

科 目	株主資本				評価・換算差額等		少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	評価・換算 差額等合計		
2007年3月31日残高	6,286,440	7,577,440	1,732,210	15,596,090	7,136	7,136	438,458	16,041,685
連結会計年度中の変動額								
剰余金の配当			△ 93,514	△ 93,514				△ 93,514
当期純損失			△ 1,090,638	△ 1,090,638				△ 1,090,638
純資産の部に直接計上された その他有価証券評価差額金の増減					△ 64,173	△ 64,173		△ 64,173
その他			1,010	1,010				1,010
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額（純額）							△ 357,968	△ 357,968
連結会計年度中の変動額合計	—	—	△ 1,183,141	△ 1,183,141	△ 64,173	△ 64,173	△ 357,968	△ 1,605,283
2008年3月31日残高	6,286,440	7,577,440	549,068	14,412,948	△ 57,036	△ 57,036	80,490	14,436,402

連結キャッシュ・フロー計算書

科 目	第10期	第11期
	2006年4月1日から 2007年3月31日まで	2007年4月1日から 2008年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,255,296	△ 1,339,790
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,090,825	△ 1,781,612
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,294,604	△ 53,842
現金及び現金同等物に係る換算差額	256	△ 1,668
現金及び現金同等物の増減額	△ 869,610	△ 3,176,913
現金及び現金同等物の期首残高	6,301,119	5,431,509
現金及び現金同等物の期末残高	5,431,509	2,254,595

営業活動によるキャッシュ・フローは、主にたな卸資産が2,571百万円増加したことにより、1,339百万円の支出となりました。
 投資活動によるキャッシュ・フローは、主に有形固定資産の取得による支出が1,091百万円、貸付による支出が1,928百万円それぞれあったことにより1,781百万円の支出となりました。
 財務活動によるキャッシュ・フローは、主に短期借入金の返済により、53百万円の支出となりました。
 以上の結果、現金及び現金同等物の当期末残高は、前年同期と比べ3,176百万円減少し、2,254百万円となりました。

（単位：千円）

ウォーターサプリメント第2弾
「水の元素－モバイルH2チャージャー」を発売

アイロム製薬(株)が、2006年11月より製造販売しておりますオリジナルブランドの「水の元素－みずのげん－(水素水)」(300ml)に加え、2007年12月から「水の元素－モバイルH2チャージャー」(200ml)の製造販売を開始しました。今後は、これら「水素水」を生活習慣病等に対する「予防水」としての地位を確立するために、積極的に臨床試験に取り組み、エビデンスを構築してまいります。

詳細は製品ホームページをご覧ください。
<http://www.water-suppli.info/>

お問合せ アイロム製薬(株)
フリーダイヤル 0120-166-432
(10:00~20:00)



介護用品「ニューフローレット エバーケア」
の販売開始

当社グループにおいて、従来から取扱っておりました介護用品「フローレット」を改良し、2008年7月より「ニューフローレット エバーケア」として販売を開始いたします。「ニューフローレット エバーケア」は、排泄物の自動吸引及び洗浄・乾燥機能の精度を従来品以上に高めるなど、介護をする方と介護をされる方の心身の負担を和らげると共に安心してご利用頂ける製品へと改良いたしました。アイロム製薬(株)では、「ニューフローレット エバーケア」を取り扱うことで、最先端の介護医療機器としてのポジションを確立してまいります。



ジェネリック医薬品市場における更なる市場開拓と
競争優位性の実現ーランバクシー社(インド)と提携

アイロム製薬(株)は、ジェネリック医薬品であり、日本市場向けに開発された高血圧治療の血管拡張剤であるアムロジピン錠「RLL」(一般名:アムロジピンベシル酸塩)の選任製造販売業者(MAH)としてランバクシー社より指名を受け、厚生労働省に対して申請業務を行うと共に、アムロジピン錠「RLL」をランバクシー社より独占的に導入し国内における必要関連業務(輸入・包装・販売・市販後調査)を請け負うことについてランバクシー社と合意に至りました。

今般の業務提携によって、アイロム製薬(株)は、国の主導による医療費抑制策の一環であるジェネリック医薬品の促進及び安定供給により拡大するジェネリック医薬品市場において、更なる市場開拓と競争優位の実現を目指してまいります。

ランバクシー・ラボラトリーズ・リミテッド
(Ranbaxy Laboratories Limited)
設立:1961年
所在地:インド、ニューデリー
売上高:1,619百万ドル(約1,700億円、2007年現在)
概要:グローバルなジェネリック医薬品メーカーで、世界49カ国で営業活動を行うと共に、125カ国以上の国々で同社製品が販売されており、世界的に最も豊富なジェネリック医薬品を取り扱う製薬メーカーの1つとして評価を受けています。また同社は、2002年より日本のジェネリック医薬品市場に進出し、高品質及び安価なジェネリック医薬品の安定的な供給に注力しております。

用語解説 ジェネリック医薬品 後発医薬品とも呼ばれます。新薬の独占的販売期間が終了した後に発売される新薬と有効成分、効能・効果・用法・容量が同一であり、新薬に比べて安価な医薬品です。

会社概要

(2008年3月31日現在)

会社名 株式会社アイロムホールディングス
設立年月日 1997年(平成9年)4月9日
資本金 6,286,440千円
本社所在地 〒141-0032 東京都品川区大崎1-2-2
連結従業員数 472人
上場証券取引所 東京証券取引所市場第一部
会計監査人 監査法人ナカチ
グループ会社 株式会社アイロム
株式会社アイロムスタッフ
株式会社アイロムメディック
株式会社アソーニング
アイロム・プロスタッフ株式会社
株式会社アイロムロハス
株式会社シニアライフプラン
アイロム製薬株式会社
株式会社アイオロパス
株式会社アイロムエーアイ
株式会社アポテカ
株式会社ビューティアンドヘルスリサーチ
株式会社ウイング湘南
株式会社アイクロス
株式会社アックコーポレーション

経営体制

(2008年6月27日現在)

代表取締役会長 森 豊隆
代表取締役社長 三宅 鐵宏
常務取締役 松島 正明
取締役 池本 康二
取締役 秀島 直樹
取締役 小丹枝直年
取締役 深田 洋
常勤監査役 佐野 隆
常勤監査役 村松 鉄郎
監査役 平間 和郎
監査役 加瀬 岩男
監査役 伊藤 公明
管理部門管掌役員
管理第二部担当役員
経営企画部担当役員
営業戦略統括部担当役員
統合ヘルスケア戦略室担当役員

株式の状況

(2008年3月31日現在)

発行可能株式総数 3,728,168株
発行済株式の総数 935,142株
株主数 21,885名

大株主

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
森 豊隆	475,425	50.84
森 利恵	82,500	8.82
森 龍介	7,500	0.80
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口) 取締役社長 小山 登志雄	6,739	0.72
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口) 取締役社長 伊戸 富士雄	5,017	0.54
三菱UFJ信託銀行株式会社(信託口) 取締役社長 上原 治也	3,420	0.37
藤川 久富	3,100	0.33
星野 泰三	3,000	0.32
ドイチェバンクアーゲー・ロンドン610	2,327	0.25
資産管理サービス信託銀行株式会社(信託Y口) 代表取締役社長 前田 仁	2,316	0.25

所有者別株式分布

※比率は、各株主が所有する株式数の割合です。

